COMPANY NOW

社会を繋ぐエンジニアリングをすべての未来へ

株式会社協和エクシオ

EXEO
Engineering for Fusion

「技術力を培う」「豊かさを求める」「社会に貢献する」というグループ理念は、「エクシオグループは何のために存在するか」という社会的な存在目的を明らかにしたものです。

エクシオグループの最大の存在基盤は、技術力です。どのように時代が変わっても、常により優れた技術、一歩進んだ技術を追い求め、それを自分たちのものにしていく企業集団を目ざしています。そして、培った技術力は、人々のより豊かな生活環境をつくりだすために発揮されることが必要です。このことを通じて、社会により大きな貢献を果たし、社会から価値のある存在として認められる企業であり続けたいと考えています。

1．はじめに

今回は、エクシオグループのフィリピン現地合弁会社MG EXEO NETWORK, Incについてご紹介します。

2020年はCOVID－19の世界的なパンデミックにより、日本国を含め世界中に多くの被害がもたらせられた年となりました。フィリピンも例外ではなく、昨年７月頃は１日当たりの新規感染者数が6,000人を越え、また、2020年３月から本稿執筆時点（2021年１月上旬）でも、段階的緩和こそありつつもロックダウンが継続しています。フィリピンにおけるCOVID－19に対する状況やMGエクシオの取組み等について後述させていただきますが、まず本感染症により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族および被害にあわれたすべての皆さまに、心よりお悔やみ申し上げます。一日も早い本感染症の収束を願うとともに、経済活動の回復にむけ微力ながらも当地にて社員一同取り組んでまいります。

2．MGエクシオについて

MG EXEO NETWORK, INC.（以下、MGエクシオ）は、1991年５月にエクシオグループの現地合弁会社として設立されました。その後、フィリピン国内で一貫して、テレコム事業者や通信機器メーカ向けに通信建設業や保守事業を営んできました。

今年で創立30周年を迎えますが、この間は決して順風な時期だけではなく、1997年のアジア通貨危機を含め何度も荒波にもまれながらも、日本品質の高度な技術を活用し、MGエクシオは地場に根付いた通信建設会社として当地フィリピンで事業を継続してきました。

現在は従業員数が約700名で、主にマニラ首都圏と、セブ島をはじめとする中部フィリピンのビサヤエリア６島全域にて、サービス総合工事やアクセス系ネットワーク網設備のメンテナンス工事、携帯基地局鉄塔工事を中心に行っています。また、2017年５月には、社員の教育・訓練用にMGエクシオエンジニアリングセンタを新たに建設し、安全指導を含め各種技術訓練や社員教育に活用しています（写真１）。

写真１　MGエクシオエンジニアリングセンタ

3．フィリピン国および弊社におけるコロナ禍での対応について

冒頭で述べましたとおり、フィリピンのコロナウイルスの感染状況は、一時期は東南アジアで最悪の感染者数を更新していました。さらに2020年１月にルソン島南西部のタール火山が噴火し、11月には２つの大型台風がルソン島を直撃するなど、2020年は自然災害と疫病に翻弄された１年となり

ました。

ただし、厳格なロックダウン規制により、本原稿執筆時点では、１日の新規感染者数が2000名未満となり、予断は許さない状況ながらも、何とか最悪期は抜け出しつつあります。

2020年３月16日夜にルソン島全域（のちにフィリピン全土にロックダウンを拡大）に対して、１カ月間のロックダウンが政府より突然発表され、外出と一切の公共交通機関の運行は禁止となりました（写真２）。あらゆる会社の事務所・お店も閉鎖となりましたが、食料販売のスーパーや医薬販売のお店は時間限定での開業が許可されました。また、医療機関も総合病院は開業していますが、小さな診療所等は閉鎖となりました。

当然ながら公共インフラサービス（含む通信事業）に関係する企業は、継続的なサービスを提供することが課せられていますので、MGエクシオも厳しい環境ながら事業を継続し、通信事業者向けの故障修理業務や開通業務を引き続き提供していました。

政府発行の通行パスを銃携行の警察官に見せ、さらに検温後に各所に設けられたセキュリティゲートをようやく通過できるという物々しさで、社員が事務所に出社できない、故障修理で作業班が訪問してもそのエリアに入れない、各種工事用の機材等輸入が遅れるなど、当初は大変厳しい状況が続きました。

社員の通勤用にシャトルカーを準備し、当初入手困難となったマスク・石鹸・消毒用アルコールを何とか確保して、それらの入手が難しい地方の工事事務所に届けました。

会社運営に必要な社員は、日本人も含め分散勤務をして、毎日の全国の感染状況や新たな政府方針を分析して、細かな対策を立てて、７月には事業運営を安定化させることができました（写真３）。

また会社内の感染リスクを下げるために、毎日Googleのアプリを活用して全社員の検温および体調管理を行い、アルコール消毒の義務付け、マスクとフェイスシールドのダブル着用、お手製のパーテーション作成、換気を良くして離れて作業するなどの努力を現在も続けています（写真４）。さらに、職場でのクラスター防止のため、延べ500回以上の抗体検査を実施し、早期発見／自宅検疫を行ってきました。これらの地道な努力で、これまでのところクラスター発生により現場がストップするような事態は何とか避けることができています。

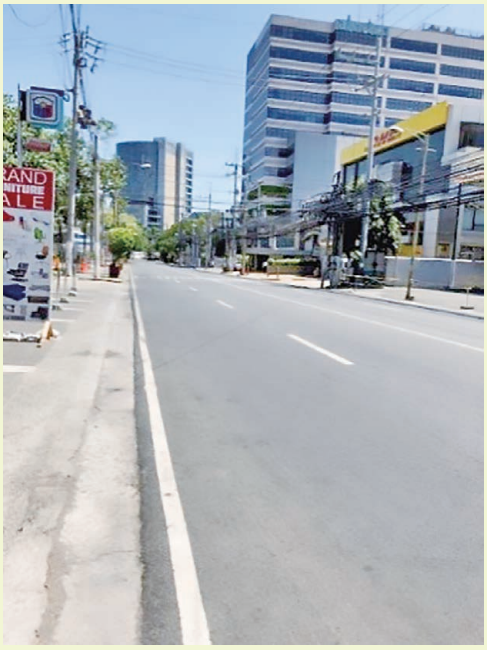

写真２　人通りが途絶えたマニラ首都圏（ロックダウン直後）

写真３　Zoomを活用したオンラインミーティングの様子

写真４　Googleアプリを活用した体調管理の様子

4．特定技能制度への取組みについて

2019年４月から新たな外国人の在留資格となる特定技能制度が日本政府により導入され、電気通信建設も、情報通信エンジニアリング協会と会員会社のご尽力により初めて認められました。

MGエクシオでは、社員の中から勤勉さや柔軟性･熱意の高さを評価して、７名の候補者を人選し、2019年11月から2020年３月の技能試験の合格に向けて、MGエクシオの研修センターに集めて日本語と技術の特訓を開始しました。

求められている日本語のレベルはN４相当というもので、基本的な語彙や漢字を使い、日常生活で身近な会話ができ、読み書きができるというものです。これまで日本語を全く学習していない人にとってはかなりの難物です。専門の日本語教師をつけて、朝から晩まで日本語漬けの日々を候補生には送ってもらいました（写真５）。

苦労の甲斐あって、２回の日本語試験を経て、７名中５名は日本語試験に合格しました。また技能試験は、当初2020年３月に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期となり、2021年３月にオンラインで開催される予定です。

現在は、2021年３月の技能試験にむけ、協和エクシオと連携しながらラストスパートをかけています。何とか全員合格し、今年の秋にはエクシオグループで働くことができるように、グループ一体となって取り組んでいます。

5．3つのF

フィリピン国内は、新型コロナウイルスによるパンデミックにより、失業者も大幅に増え、経済活動も停滞していますが、このような状況でもフィリピン人の心を支えているのは、Family（家族）、Faith（信仰）、Fiesta（お祭り）の３つのＦです。

まずFamily（家族）についてですが、フィリピンでは家族の絆が何よりも大切で、よく日本の昭和時代と比べられますが、今でもこの絆は強く残っています。家族といっても近親者のみを指すのではなく、遠縁者含めみんなが家族！というとらえ方で、経済的な困窮のなかお互いが助け合いながら、この苦境を乗り越えようとしています。MGエクシオにおいても、2020年のキーワードは、「Ｗｅ ａｒｅ ＯＮＥ！ Ｗｅａｒｅ ＭＧ EXEO！」であり、一丸となってこの状況を克服するという思いが込められております。余談ですが、フィリピン経済の中心は、同族経営による財閥であり、ここからもフィリピンの家族に対する強い絆を感じ取ることができます。

次はFaith（信仰）です。フィリピン人は、ミンダナオ島の一部地域を除くと９割以上がキリスト教の信仰者です。感染防止対策のため、教会でのミサは一部の特例を除き今でも禁止されていますが、インターネットを駆使したオンラインミサや著名神父からのメッセージなどは、コロナ禍において大きな支えとなっており、教会システムが社会的弱者を支えるセーフティネットにもなっています。

最後はFiesta（お祭り）です。宗教行事やお誕生日などのイベントを、家族や大事な人と一緒に、思いっきり派手に行うことが、フィリピン人最大の喜びのひとつであるといえます。FaithとFiestaは、米国以前の前宗主国であるスペインからもたらされたものです。いろいろあるFiestaの中でも、１年を締めくくり、イエス・キリストの降誕をお祝いするクリスマスは特別な意味があります。会社主催のクリスマスパーティーは公式行事であり、従業員満足度を向上させ、会社と社員の絆を深める重要な場でもあります。ただし、2020年は新型コロナウイルス感染防止のために、フィリピン政府からは集合形式では禁止とされました。

写真５　日本語勉強の様子

当初は会社主催のクリスマスパーティーを中止することも考えましたが、このような厳しい年だからこそ、無事一年を乗り切れたこと、大きな事故がなかったこと、そして2021年に向けた絆を結びつけるために、「我々は離れていても繋がっている、One Team」をテーマにして、オンラインで全社員参加の一夜限りのクリスマスパーティーを開催しました。

パーティー当日は３密を避けて事前収集したビデオを編集しネット配信するという初のオンラインクリスマスイベントを夕刻より開始しました。まず、国歌斉唱と神への感謝から始まり、来賓のご挨拶の後、いよいよ各事務所対抗の口（クチ）パクダンスバトル、個人応募のマスクマスカラ（仮面）バトル、そして最後はお楽しみ抽選会です。それぞれのバトルにはランクに応じて賞品が授与され、抽選会の当選者にも賞品が授与されました（写真６・７）。

毎年この時期になると、パーティーイベントにかけるフィリピン人社員の意気込みと創造性と段取り力の高さに驚かされます。他の日系企業の駐在員

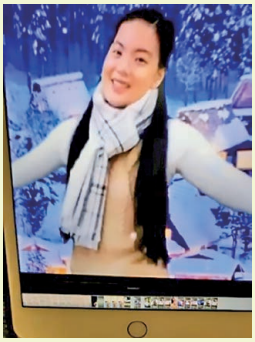

写真６　口パクダンスバトル（優勝チーム）

写真７　マスクマスカラバトル（優勝者）

写真８　日本人駐在員にも人気のシニガンスープ

の方に聞いても、この能力をもっと仕事でも発揮してもらえると会社運営も楽になるのになぁ、と思うのは私だけではないようです。でも、これは価値観の違い・多様性だと思えるようになるまで数年かかりました。

せっかくためたネットワークイベントのノウハウですが、来年は新型コロナウイルスが収束し、従来通り各現場事務所を訪問して、一緒にクリスマスパーティーをお祝いできるようになればと願っています。

写真９　協和エクシオ舩橋社長とＭＧエクシオ社員
（写真はコロナ禍前に撮影されたものです）

６．コロナ禍でのフィリピンこぼれ話

ロックダウンにより外食が制限されたことから、自炊をする機会が増えました。マニラは日本食レストランが多いので以前は日本食を中心に外食の機会が多かったのですが、それが難しくなったことから、手軽に材料が調達できるフィリピン料理の自炊にもチャレンジしています。試してみると、意外と日本人の口（クチ）に合う料理も多く、有名なYouTuberによるレシピ講座もあり、ご興味があれば、本稿をご覧の皆様も是非一度フィリピン料理にトライしてみてください（写真８）。

また、2020年の日本の文化を語る上で欠かせないのが、映画「鬼滅の刃」です。フィリピン国では「Demon Slayer」というタイトルでアニメが放送され、若年層を中心に高い人気を誇っています。映画は規制の関係で限定された映画館で週に数回しか上映されないためチケットは即完売で、SNSでは追加上映を求める声でいっぱいとのことです。映像・音楽コンテンツでは韓国勢･中国勢に押され気味ですが、ステイホームが推奨されるなか､日本勢も世界に負けないよう応援しています。

７．おわりに

筆者はフィリピンでの駐在期間は約４年半ですが、2020年は日本とフィリピン国での各種社会基盤の違いを特に感じる年となりました。早々に崩壊する医療体制や脆弱なインフラなど、国力の違いにより仕方のない面も多いのですが、大統領主導の対策は性急かつ大胆で、予測が難しく、経営から日常生活まで気の抜けない１年となりました。

このような厳しい状況下でも、明るく仕事をするフィリピン人メンバーに日々元気をもらっており、前を向き続けることの大切さを学ばせてもらっています。

2021年もこの状況が直ちに改善する可能性は低いかもしれませんが、人類の英知と連携が、この厄災に一日も早く打ち勝てることを信じ、両国の交流が早期に再開し、大切な日常が戻ってくることを祈念しながら末筆の挨拶に代えさえていただきます。

（筆者・協和エクシオ常務執行役員
MGエクシオ取締役　松田 栄一）